

## 資料の紹介

### プロペラ後方におかれた舵角を有する舵の表面圧力分布計算

森山文雄、右近良孝

現在就航している多くの船はプロペラの後方に舵が配置されている。プロペラは船後伴流中で作動するばかりでなく、舵が後方にあることによる止蹟効果で、作動状態が単独作動時と大幅に変わる。一方、舵も船尾伴流中に配置されるとともに、プロペラ後流渦の極めて複雑な流場で作動するため、舵の性能を特定したり、計算することは容易でない。本報告ではプロペラ後方に置かれた舵の圧力分布を大型キャビテーション水槽で計測した。得られたデータを性能計算のためのデータ・ベースとすることが本報告の目的である。今回の計測では舵角を最大 $\pm 20$ 度取った時の計測も行っている。また、曳航水槽での試験より高レイノルズ数で計測しており、本報告のデータはプロペラと舵の干渉問題に関する新しい理論の開発にとって、貴重なデータとなるであろう。